

テーマ: 光と影

西池袋第二保育園(豊島区)

テーマを設定する

子どもたちは、光や影に興味をもっており、活動の中で光の不思議さや面白さをより体験することで更に興味や関心がもてる機会にしたい。

活動① アーティストワークショップ1

大きなトライアングルスクリーンをつかった、光と影あそび。色の変化を楽しんだり、新しい遊びを考えてみる。

環境をデザインする

●準備した物 スクリーン台、投光器、延長コード、油性マジック、はさみ、色紙、セロハンテープ、毛糸、リボン、お花紙、カッティングシート、セロファンほか

探究活動を実践する

●活動内容

- ①ホールには、木製フレームに白布を張ったスクリーンが3台、トライアングル上状のスクリーンに設置されている。(スクリーン中央には出入口があり、中に入ることができる)
- ②ホールにやってきた子どもたち。「なにこれー!」と大きなスクリーンに興味津々。
- ③ジョニー(アーティスト)の自己紹介の後、みんなでトライアングル状のスクリーンの中に入ってみる。
- ④スクリーン外側より光を当てて、その前でジョニーが自分の影や、造形物を映して、子どもたちに見てもらう。／「今日はみんながつくったものを光に当てたり、スクリーンに直接絵を描いて遊びたいと思います!」
- ⑤制作スタート。色紙やカッティングシート、セロファン、毛糸、リボンなど様々な材料から、子どもたちが自分で考えながら、必要なものを選ぶ。
- ⑥棒につくった物を貼りつけて、光に照らした影を動かしたり、トライアングルの状のスクリーンの中に入って、他の子が映した影を追いかける。／友達に触発されて、楽しいアイデアが浮かんでくる子どもたち。白いスクリーンもどんどん絵で埋まっていく。
- ⑦ジョニーから終わりの合図。「とっても楽しい時間だったけど、来週また来るから、何をするか考えておいてね!」

●子どもたちの様子

- ・光源側からマジックで赤い三角の形を描いて・・・「こっちから見えてるけど、あっちからもみえてるの」と言ったら、スクリーンの反対側にまわると、今描いた形が鮮やかに映えている。反対側から緑で書き足して「いちご」を完成させると、そこに影の魚たちが集まってきた。
- ・セロファンで作った魚をスクリーンの前でくるくると回すと、映る影も輪郭がぼやけながら面白い動きをする。

活動スケジュール(4歳児クラス)

活動内容	実施日	時間/回	人数/回
① アーティストワークショップ1 講師:水内貴英(美術家)	R7.1.10 (金)	60分程度	17人
② アーティストワークショップ2 講師:水内貴英(美術家)、他1名	R7.1.16 (木)	60分程度	17人
③ 影遊び	R7.2.18 (火)	60分程度	17人



振り返りをふまえた気づき

●保育士から

- ・子どもたちはホールに入るまでは何をやるのだろうとイメージがついていなかったが、入ってからは目が輝いて終始心を弾ませていた。
- ・折り紙やセロハンを籠に入れて並べておくなど、ダイナミックな素材の提供の仕方が大切だと勉強になった。子どもたちが自分で考えながら素材を選ぶことができるので、ワクワク感が高まるのだと感じた。
- ・普段見ることのない大きなキャンバス(スクリーン)を目の前に、活き活きと自由に子どもたちが描く姿が見られ、身体を大きく使って伸び伸びと活動できていた。子どもたちが一緒になって関わり合いを持ちながら、光と影あそびを楽しんでいた。今回見えた子どもたちの姿や、素材の提供の仕方等、今後の保育に活かしていきたい。

テーマ:光と影

西池袋第二保育園(豊島区)

活動② アーティストワークショップ2

外部講師としてパフォーマーが加わり、楽器や身体表現を交えながら、造形だけでなく、光と影のお話づくりや影絵あそびを実施した。

環境をデザインする

●準備した物 スクリーン台、投光器、延長コード、油性マジック、はさみ、色紙、セロハンテープ、毛糸、リボン、お花紙、カッティングシート、セロファン、演奏用楽器ほか

探究活動を実践する

●活動内容

- ①ジョニー「今日はスペシャルゲストを連れてきました！」
- ②子どもたちがスクリーンの中に入ると、まいぼ(アシスタント)の影が登場。「一緒に遊ぼう！」
- ③前回に引き続き、子どもたちは様々な材料を使って、思い思いのものをづくりはじめる。
- ④模様が入ったカラーセロファンを光に当てると、背景の色が大変身。その中で子どもたちが影を動かし、お話づくりが始まる。
- ⑤楽器が登場。ウクレレ、オーシャンドラム、チャフチャス、スライドホイッスルを鳴らしながら、影を使った遊びが発展していく。
- ⑥黙々と制作を進める子、楽器がお気に入りの子、影や色の変化を楽しむ子、まいぼと一緒に即興的に物語をつくる子、それぞれのペースで進んでいく心地良い空間。
- ⑦最後につくったものを持って、みんなで影のパレード。スクリーンに描いてある絵に反応しながら回っていく。
- ⑧楽しい時間もあっという間におわり。「ジョニーとまいぼがいなくなっても、光と影で遊んでみてね！」

●子どもたちの様子

- ・カラーセロファンに光を透かすと、とても色鮮やかに！アーティスト「色を重ねるとどうなるかな？」、子ども「こんな色になった！」
- ・スクリーンの内側ではごっこあそびが始まった。青、赤、黄色などのセロファンで朝や夜を表現しながら楽しんでいる。楽器で音を出して、盛り上がる。「だれかー、よるにして！」「おふろのじかんだよ」「くらくなったね。ねむいなあ」「あさだよー。おきて！」
- ・一人がスクリーンの裏側をのぞき込むと、その様子を受けてもう一人がのぞき込んで確認。発見や驚きをみんなで分かち合いながら、新しい発見が生まれていった。



振り返りをふまえた気づき

●保育士から

- ・前回のワークショップ体験が強く残り、2回目を心待ちにしていた。1週間空いていたことで子どもたちのイメージが膨らみ、「次はこんなことしたい！」とわくわくしながら当日を迎えようとする姿が見られた。
- ・自分からどんどん前に出て、それぞれのアイデアを形にできていたり、いつもはみんなの輪に入って活動するのが苦手な子も、他の子と一緒に遊べる姿が見られた。
- ・それぞれの感じ方や表現が異なることを自然と受け入れ、自分の居場所を見出して活動していた。どんな子も、どんな姿でも参加できる空間、環境の大切さを発見した。
- ・「あそぶ」と「つくる」の距離が近く、アイデアが浮かぶとすぐに行動にうつすことができた。
- ・影絵を使ったお話づくりや、光の色の変化から連想されるごっこ遊びなど、新しい遊びを生み出していた。楽器を演奏してみたり、平面(造形)だったものが立体になっていくように展開していたのが興味深かった。

テーマ:光と影

西池袋第二保育園(豊島区)

活動③すくわくプログラムを体験して

前回の光と影のお話づくりや影絵あそびを引き継いで、自分たちで身体をつかうことを体験しながらの影絵あそびを行う。

環境をデザインする

●準備した物 影絵スクリーン、投光器、延長コード、

探究活動を実践する



●活動内容

- ①ホールには影絵のスクリーンを設置。
- ②子どもをホールにつれていくと、これから始まることをたのしみにする子もいる。
- ③どうしたら影ができるのか考える。
- ④保育士の影をみて、どのように影を作っているのか予測する。
- ⑤自分たちも影をつくり、映りかたを工夫したり、友達が誰が映っているかをみて楽しむ。

●子供たちの様子

子どもをホールにつれていくと、「影？」とこれから始まることを予測する子がいた。スクリーンを見て、「ジョニーくるのかな？」「後ろにいるんじゃない？！」とすくわくが始まるのでは？と期待することもありました。保育士がスクリーンの背後に回り確認。誰もスクリーンの後ろにいないことを伝えると、がっかりする子どもたち。

スクリーンに気持ちが向いていた子から、「影うつんなかったね」との声が上がる。「なんでだろうね？」と投げかけると「電気がついてるからじゃない？！」との発言。確かにすくわくの時は、暗い中で行っていたので、ホールの電気を消し、保育士がスクリーンの背後に入ってみる。「あれ？映んない？なんで？」と疑問があがる。「ジョニーがもってきた魔法のライトがないからだ！！」「ジョニーもってっちゃったから映んないんじゃない！！！」という結論に・・・

ライトがあることを伝えると、大喜び。

まず、保育士がスクリーンの中で影を作って見せた。

「せんせ～がうつってる～」と大盛り上がりの子どもたち。「やりたい！！」と声が出たので、グループ毎に影遊びとなりました。「○○ちゃんうつった～」「大きすぎる～」「みえない」などなど、見ても楽しく、参加しても楽しい活動となった。

振り返りをふまえた気づき

●保育士から

・影あそびを今回は、自分たちの体を使って楽しみたいと思い計画する。スクリーン、ライトなどの環境の設定をしたが、活動は子どもたちとのやり取りのなかで、感じること、考えていることを引き出しながらすすめていく。電気がついていないと、影が映らない、ライトがないと影をつくれなくて、どういう動きをすると、影がどううつるかなどなど、自分で体感して、発見する体験ができた。